

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500168		
法人名	有限会社 とーか		
事業所名	グループホーム とーか		
所在地	山口県周南市政所4丁目11番13号		
自己評価作成日	平成24年5月2日	評価結果市町受理日	平成24年10月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年は特に地域密着に重点を置き、近隣の方とのふれあいを大切にしています。毎年恒例の「とーか祭」を始め、今年度からは毎月10日に「とーか市」を開催しています。このような行事の際は、とーかへ気軽にお寄りいただく機会となればと近隣の方にお声を掛けています。また近隣へのゴミ拾い、行事の際に作った料理をおすそ分けしたり、地域のお祭りに参加したりと積極的に地域へ出て行くことでより地域へ密着した施設作りに取り組んでいます。またとーか市では利用者の方に仕事をする事の喜びや楽しみを見出していただくことも目的としています。子育て支援については「くるみんマーク」認定を受けており、産前産後の勤務の調整や子育て中のスタッフへの勤務の配慮、子供の託児などを行っています。施設内はもとより施設外でも世代間交流を通して笑顔にあふれた笑い声の耐えない施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元気な気持ちで一日一回は笑って戴き、それを継続してゆく」という理念のとおり、毎月行われる「とーか市」の展示や販売・来訪者との交流や事業所内託児室の乳幼児とのふれあいなど、利用者が元気な気持ちで毎日を明るく過ごせるように支援しておられます。家族との連携や情報提供がきめ細かく行われ、健康管理状況や活動状況・担当スタッフの個別のお便り・家族向けホームだより・写真等が送られ、3ヶ月毎に開催する自主的な家族会活動が利用者の多様な暮らしを支え、連携を深めておられます。地域の協力関係もあり「とーか市」や毎年開かれる「とーか祭」にはボランティアやお客様として参加され、避難訓練時の利用者の見守りや、消火訓練に参加されています。職員の職場環境づくりとして事業所内託児室や職員のクラブ活動への助成が行われ、業務改善に繋がる提案や行いがあった職員を月間MVPとして表彰される他、勤続年数に応じた表彰など、職員のやる気につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	と一かの理念が「惜福・分福・植福」であることはスタッフ全員が認知しています。施設長、管理者はその理念に基づいたケアができるよう、職員会議等で折に触れ話をしています。	法人の理念を基に事業所の理念を「元気な気持ちで一日一回は笑って戴き、それを継続してゆく」とし、職員会議等で話し合い、運営者・管理者・職員は理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	と一か祭、と一か市等地域の方がお越しいただきやすい行事の開催。スタッフによる近隣へのゴミ拾い、買い物は近所のスーパーを利用。外への散歩の際には積極的に挨拶し、近隣の方と交流。	自治会に加入し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。地域の行事に参加し、年に一回開催される「と一か祭」や毎月10日に開催される「と一か市」など事業所の行事には地域からも多数の参加者があり、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内研修への参加の呼びかけをさせていただいています。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果は全職員で共有し、改善すべき事項については早急に改善するよう努めています。	運営者をはじめ全職員は評価の意義や目的について理解し自己評価に取り組んでいる。評価を活かして、具体的目標を立てて改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。会議での意見は職員会議を通じて全スタッフへ報告、活用しています。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や活動を報告し、意見交換をしている。会議での意見は職員会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に市の担当者の方へ出席していただき、施設の運営にご理解いただくとともに、不明な点などはその都度担当の方へ質問するなどし、連絡を密に取っています。	運営推進会議への出席がある他、日頃からの相談や情報提供により担当課職員との連携や協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の門扉は常時開放していますが、利用者の状態、スタッフの人員の関係などで利用者の方に危険を及ぼすと判断される際には一時的に施錠することがあります。その際には職員間で連携し、施錠しっぱなしにならないよう努めています。身体拘束は0。転倒の危険のある方へはセンサーや鈴などを使用し拘束することの無いよう配慮しています。	身体拘束について正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は原則行っていない。利用者の状況や職員の配置により安全上やむを得ず施錠する場合は、できるだけ速やかに開錠するように取り組んでいる。研修やミーティングで再確認し、拘束をしないよう努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などにはボディチェックを行い、傷等を確認した際にはスタッフ間で原因を追究し、利用者の方の言動等にも注意し、些細なことも見逃さないよう努めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には冊子回覧で勉強してもらいました。現在対象者はおられません。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定後社長・施設長より説明、契約を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回家族会を開催し、家族からのご意見、ご要望を伺っています。また面会時などにご意見を頂いた際には責任者へ報告、敏速に対応するよう努めています。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に説明している。家族会や運営推進会議に於いても、運営やケアに対する意見や要望を聞き、出た意見を職員間で共有し介護や運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の活用。社長や施設長も利用者、スタッフと食事を摂ったり、慰労会やスタッフの誕生会の開催などスタッフと運営者とが話をする場を積極的に設けています。	月1回の職員会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、日常的に意見交換や提案を行い、意見を運営に反映させている。事業所内託児室の開設や職員のクラブ活動への助成など、働きやすい職場環境づくりに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議の場において、今月のMVPを決定。勤続5年のスタッフへの勤務褒章などスタッフの努力を形にして賞賛することで意欲の向上を目指しています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は積極的に参加、できるだけ希望するスタッフに参加してもらったり、必要と思われるスタッフへ参加してもらうよう配慮しています。施設内研修も随時開催しスタッフの育成に努めています。	外部研修は、参加の機会を提供し、希望者や必要な職員が参加している。内部研修の実施や、資格取得の支援も行い、働きながら学べるよう取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周南地域のグループホーム連絡協議会への参加。スタッフへ個別に口頭でできるだけ参加するよう呼びかけ、今年度は多くのスタッフが研修に参加しました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご本人より意見を伺い、情報収集に努めています。センター方式を活用して把握し、サービス計画に活かすよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご本人より意見を伺い、情報収集に努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ入所段階にない方についてはケアマネと相談しサービス提供を支援しています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方を「人生の大先輩」として敬うことを常に意識し接しています。10時、15時のおやつの際は利用者の方と一緒にお茶をし、ニーズの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の現状については面会時の口頭説明に加え生活シートの提示、毎月のお手紙にて随時報告。またかかりつけ医との連絡については基本はご家族にて、行事等へ積極的にご参加いただくなどし、ご利用者の方を共に支えていただけるよう支援しています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩の際に馴染みの場所へ行くようお手伝いさせていただいています。	家族の協力を得て、馴染みの寺社への参詣、理美容院の利用などを行っている。友人、知人の訪問の受け入れなど、関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業などを通じて利用者同士が関われるよう支援したり、トラブルが懸念される際にはスタッフが仲介。孤立されている方には積極的に声をかけ、他利用者の方と良好な関係が築けるよう支援しています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所の際にはお見舞いに伺ったり、退所後であつてもと一かの行事をご案内して、関係が継続できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの何気ない意見なども聞き逃さず、知りえた情報は担当者会議においてスタッフ間で共有しケアに活かしています。	フェースシートや24時間生活シートを活用し、何気ない言葉やつぶやきを記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の気持ちやこれまでの利用者の行動などから、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接にて情報を収集し、フェースシートを作成、スタッフ間で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の日課はありますが、本人のリズムを尊重しケアしています。ご本人の心身状態をスタッフ間で申し送り、残存機能の維持に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を開催、計画の変更の必要な方について検討しています。協力病院の医師、家族へは随時報告、意見を伺い計画に反映するよう努めていますが、家族の意見を伺うタイミングについて今後改善が必要であると考えます。	毎月の担当者会議で、介護計画を検討し、6ヶ月毎にモニタリングを行い、一年毎に介護計画を見直している。協力医療機関の医師や家族の意見を聞きながら、状況に変化が有る時はその都度計画を見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活シートを活用し、何気ない言葉も記録してケアに活かせるよう努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	川崎観音へ月に1度のお参りを援助したり、山崎八幡宮、政所稲荷の祭事などに参加するなど地域資源を活用しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご利用者、ご家族の意思を尊重しています。受診の際には基本は家族へ依頼、必要に応じて送迎など支援しています。緊急時には協力病院へ連絡、受診、往診とご協力いただいています。	利用者のこれまでのかかりつけ医の他協力医療機関をかかりつけ医とし、家族の協力を得て受診の支援をしている。緊急時には協力病院への受診や往診で対応するなど適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の契約医の定期往診時に相談報告をするようにしています。必要に応じて訪問看護ステーションに相談、助言を依頼しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にご家族へ連絡をし近況を伺い、できるだけお見舞いに伺い、状況把握に努めています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに向けてのご家族、ご利用者へのアンケートの実施。ターミナルケアについての勉強会の実施。ターミナルケアへの移行が予測される方については医師、家族を交え担当者会議を開催、家族ご本人の意向を踏まえ方針を決めています。	重症化や終末期の対応について家族へのアンケート調査の実施や、事業所内で勉強会を行っている。終末期が予測される利用者には早い時期から本人や家族・かかりつけ医・職員等と話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハットを活用し、職員会議において検討、再発防止に努めています。緊急時の対応、応急処置などは職員会議において研修を行っています。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、利用者一人ひとりに応じた事故防止策を検討し、事故防止に取り組んでいる。緊急時対応や応急手当についても実技を含めた研修を行い、実践力が身につくよう取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、夜間を想定した避難訓練も実施しました。火災時には近隣住民の方のご協力をいただくよう呼びかけています。地震、水害への対策についてはマニュアルを作成しています。	利用者が参加する避難訓練を定期的に行い、近所の人達も一緒に参加し、避難した利用者の見守りや消火訓練を行っている。災害に対する各マニュアルを整備し、地域住民の協力や支援についても具体的に話し合っている。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいますが困難な場合が多いと感じます。排泄の確認の際、難聴の方に対して大きな声を出さざるを得ないこともあったり、危険を伴う際には安全を優先させていただいています。	職員は人格の尊重やプライバシーの確保について心がけている。声かけや対応が誇りやプライバシーを損ねているのではないかと、常に振り返りをしながら取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけをし、支援しています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状としてスタッフ側の都合を優先してしまう場面も多々ありますが、できるだけお一人おひとりのペースを大切にしよう心掛けています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはご自分で選べる方には選んでもいただき、ご自分では困難な方については同じ服にならないよう配慮しています。女性には行事の際にはお化粧品をしていただくなどおしゃれを楽しんでいただきたいと支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けなど、出来る方が限られてはいますが可能な限り手伝っていただいています。食事はスタッフも一緒にいただき、会話を楽しみなながら楽しい雰囲気作りに努めています。	主菜は併設事業所の厨房で作っている。利用者は、食材の下ごしらえや後片付けなどできることを職員と一緒にしている。職員と利用者は同じ物を食べながら、ゆっくりと会話をし、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認。必要な方については水分摂取量も確認。 管理栄養士による献立の作成。 月に2回体重測定を行い体重の増減のチェック。必要であれば食事量を調整。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、入れ歯を使用されている方については夜は洗浄剤を使用し清潔に努めています。 必要があれば随時歯科受診を支援しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在オムツ使用者は0人。お一人おひとりの排泄パターンに沿ってトイレへ誘導。最近は失禁をされる方が多く、ほぼ全員の方がトイレへの声掛けを必要とされています。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、習慣を活かして、人権やプライバシーに配慮したさりげない声かけや見守りを行い、トイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動の実施、オリゴ糖の使用、腹部マッサージなどできるだけ薬に頼らない排便を目指していますが便秘の方が多いのが現状です。長期間排便のない方については山口Dr.看護師へ随時連絡し、指示を仰いでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日の入浴ですが、個々の状態に応じて対応しています。できるだけご希望に添えるよう配慮していますが、水虫等の疾患のためこちらで順番を決めさせていただく場合もあります。	入浴は毎日15時から18時ごろまで可能で、利用者の希望や気持ちに配慮しながら個別に対応し、入浴が楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きていただき、夜間十分な睡眠がとれるよう努めていますが、ご利用者の高齢化に伴い日中横になることを希望される方もおられますので、その際には夜間の睡眠に影響が無い程度で休んでいただいています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し活用しています。副作用については特に注意が必要な場合は職員会議の席などでスタッフ全員に周知できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドリルや手伝いなどの役割をお願いするなど、張り合いを持っていただけるよう支援しています。またレクリエーションや季節ごとの行事などで季節感を感じていただくよう努めています。	事業所独自の行事である毎月10日に行われる「と一か市」の値段付けや商品の整理は利用者の生きがいややる気につながっており、当日はお客様との交流を楽しんでいる。家事や手作業・レク・外出・季節行事などを行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で遠くへお出掛けや外出に行くときなどはご家族にもできるだけご参加いただいています。又近所を散歩したり、買い物に行かれる際には地域の方々のご協力をいただいています。	事業所は法人の併設事業所や菜園に囲まれた閑静な住宅街にあり、事業所周辺で日常的に散歩や戸外の生活を楽しんでいる。買い物やドライブ・外出・レクリエーションとしての外出も支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方は少なくほとんどお預かりしていますが、買い物時はお金をご本人にお渡し支払っていただいたりと支援しています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的ではありませんが要望があれば支援しています。また母の日などにはご家族にカードを書いていただき、皆様大変喜ばれていました。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・カレンダー・壁面を季節感のある作品で飾ったりしています。清掃には気を配り、ご利用者、来所者が不快なおいなど感じないように努めています。室温、湿度に気を配り、窓の開閉、エアコンなどを使用し調整しています。	食堂・リビングに飾られた季節の花や壁面に飾られた季節感のある利用者の作品など温もりや家庭的な雰囲気がある。団欒のためのソファや椅子が配置しており、リビングの一角に設けられてある畳の間では、事業所内の託児室を利用する乳幼児との触れ合いもあり和やかに居心地よく過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室、廊下の椅子、玄関のテーブルと椅子などゆっくりと過ごしていただく場所の工夫をしています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出のあるものを居室に置いて頂いています	思い思いの馴染みの物や家族の写真・利用者の作品を飾り、利用者が自分の居室として安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下駄箱に名前・たんすには何がしまっているか書くことで、できることはできるだけご自分でしていただくよう支援しています。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームとーか

作成日: 平成 24年 10月 22日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	地域との協力体制の構築	地域の方が今まで以上に気軽に足を運べるグループホームを目指す	とーか市の充実。他地域の方も参加しやすい行事の立案。	1年
2	27	利用者や家族、医師など関係機関のサービス担当者会議への参加が十分でない	利用者、家族、医師との意見交換の場を設け、より充実したサービス計画の立案を目指す	定期往診の活用。家族への呼びかけ。	1年
3	61	利用者の一部の方以外は行きたいところに行きたい時に行けていない。	すべての利用者の方が気軽に外出できる環境作り	行きたいところがなかなか伝えられない方への聞き取りの工夫。外出に向けての支援。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。